









昨曉、記念公會堂全燒す

二十五年、午前二時半、市内吉野三丁目七番地東京証券會堂第一階東側廊下から爆火、みるみるうちに火災は急激に、事務所、二階総當房、會課室に及び同様の物置のみに残しては、急遽馳せつけた消防署の活躍による。



〔寫眞〕  
天を焦して炎上中の記念公會堂（上）と四  
の壁柱のみを残した慘憺たる焼跡

公會堂の歴史

惜しまれる記念建築

[illegible]

第一次は二十日――

御遺骨着京日變更

既訃、故國へ無言の凱旋の途次八月第二次蕭京する皇軍將士の御遺骨は蕭京出發の日時を左の如く變更された

▽蕭京二十三日午後十時四十五分（御遺骨は清鐵西廣場クラブ）

▽慰靈祭二十四日午後一時半▽出發同午後三時二十五分

# 出火原因は

保險は一口、廿四萬圓

火災會堂の保護に關して、司  
史・保安係は二十日朝から申  
出、發安南係で出火原因追究  
のため李少芝芝園の参遊調査  
を兼ね、食寮等へも、宿直  
員・警備教名の引渡しと取調留  
めの結果六名の警戒士を配置  
し使へり。一先づ阿宅を許した

嚴罰の發見者が獎状並に懸  
え上つてゐることを目撃して  
より、火の無のない暖房の  
破裂が、推して芝居客の座  
席間へ電線たる火が附着する  
のを待たず、布團市場に  
積んでゐたものから失火する  
のとられてゐる。推定は延

千八百八十一年、約全  
二千六百四十個、時價は總  
二億餘圓、津浦火災貨物機  
二條、三井火災保險機七  
萬圓、三井火災保險機七  
萬圓と合計十三萬餘圓であ  
つた。今は総大組合に  
事務所、什置期所の集書  
にのほまひ見込み

國都に是非必要

# 再建要望の聲

けふ役員會で協議

紅蓮の炎猛り狂ふ

長春時代  
以來の  
**國都名物烏有に**

水上戰に連覇

滿洲軍優勝は五種目  
朝鮮對抗競技場

[illegible]

焼け出された

満洲新劇李少春一行百廿名  
 新劇李少春一座  
 ひがけぬ火災に全焼した公  
 堂に十七日より公演してゐ  
 公演したのみで興行主  
 約十一日間の残餘八日

[illegible]

謝出火御見舞

今晩出火の際に早速御馳つて被下奉感謝候記念すべき建物と烏有に歸し候様  
恐縮の至りに不堪候實は一々拜趨御禮申上ぐべき筈の處何分混雜中のことと  
て御尊名御同ひ洩れも可有之と存じ乍畧紙献上を以つて御禮申上候

康應六年八月二十日

謝失火御見舞

記念公會堂に於て芝居興行中の處今回公會堂出火に際し早速御馳付け御  
見舞を辱ふし難有御禮申上候混雜中御尊名等伺ひ洩れ等有之やも計り難く生  
界儀に紙上不取敢御禮申上候

八月二十日

敬具

文化大戲院

謝類燒御見舞

針谷彌一

電話 (三) 二九八二番

謝近火御見舞

五十鈴

[illegible]

謝類焼御見舞

申上格に御座候處浪蓮中御堂名御伺ひ進れも可有之不取  
 取紙を以つて御禮申上候  
 記念公會堂食堂  
 落合幸之介  
 料亭やよい  
 吉野町 千日  
 電話 (三三三九〇)

謝近火御見舞

社團法人**滿洲聯合會**製粉  
謝類燒街見舞  
**上原裝置部**

謝近火御見舞

鹽塚辰男  
東二條通  
電話(3)四九四七番

謝近火御見舞  
御料理 曾我廼家

謝近火御見舞

山田興行部  
山田禮水  
吉野町三丁目  
松田洋服店  
三笠町三丁目  
謝近火衛見舞

11

謝近火御見舞

長  
春  
座

新 京 吉 野 町  
電 話 ③ 五 七 六 六 番



